



活躍の現場から



● 博物館で活躍するCIR —— 福岡県立アジア文化交流センター交流課

はじめに

福岡県立アジア文化交流センターは、九州国立博物館の中にある福岡県の出先機関であり、独立行政法人国立文化財機構と連携協力して博物館の事業運営をしています。九州国立博物館は、「日本文化の形成をアジア史的観点から捉える」というコンセプトを柱に、日本における文化交流の拠点として、アジア各地の博物館などと積極的に交流しています。現在は、韓国、中国、タイ、ベトナムの11の博物館などと学術文化交流協定を締結し、協力関係を築いています。



九州国立博物館は太宰府天満宮に隣接しており、自然豊かな場所にあります

博物館での CIR 業務

博物館の国際交流事業をより推進していく体制を確立するため、韓国、中国、シンガポール（英語圏）出身の計3人の国際交流員（CIR）を任用しています。3人は交流課に所属しており、館のパンフレットや案内表示などの翻訳、海外からのお客様の通訳や、協定館との連絡・調整、留学生向けのイベント企画・運営など、さまざまな国際交流に関する業務を行っています。

● 協定館との交流事業

韓国の協定館とは、毎年相互に研究員を派遣して、学術交流を行っています。コロナ禍では中止を余儀なくさ



韓国の博物館とのオンラインプログラムで韓服を着て通訳をする金 CIR（左から2番目）

れましたが、2022年度はオンライン形式のプログラムを実施し、2023年度は4年ぶりに相互派遣を行うことができました。いずれも韓国出身の金 CIR が活躍しています。オンラインプログラムでは司会と通訳を務め、6月に韓国から研究員を受け入れた際には、韓国の博物館との事前準備から、来日後は2週間にわたり西日本各地の視察先へ同行して通訳を行いました。考古学分野の専門用語が多い難しい通訳でしたが、博物館での4年の経験をもとに臨機応変に見事に対応してくれました。

2023年度は、中国の協定館である南京博物院の創立90周年祝賀会に招待され、副館長と中国出身の黄 CIR



南京博物院創立90周年祝賀会で通訳をする黄 CIR（中央）

が出席しました。事前に南京博物院や中国領事館と入国手続きなどの調整を行い、現地での盛大な式典には中国各地の博物館からも館長などが出席する中、黄 CIR は堂々と通訳をやり遂げてくれました。今回の訪問での活躍により、南京博物院や世界の多くの博物館と交流することができました。

・博物館ならではの仕事

九州国立博物館には、「きゅーはく号」という移動博物館車があります。アジアの民族楽器や民族衣装などを載せて学校や公共施設などに出向き、アジアの文化体験の機会を提供しています。2023年11月に、シンガポール出身のソン CIR が職員として参加しました。民族楽器を弾けるように何日も前から練習し、当日は集まった子どもたちに丁寧に教えてくれました。ソン CIR の活躍により、子どもたちは笑顔でアジアの文化に触れ、とても楽しんでいる様子でした。



きゅーはく号で子どもたちに民族楽器の弾き方を教えるソン CIR (中央左下)



イベントの受付をする黄 CIR (左) とソン CIR (右)

・ CIR 3人で企画・運営するイベント

毎年11月3日(文化の日)に、留学生に向けたイベントを実施しています。内容は CIR 3人で一から企画し、運営まで行っています。今年度は趣向を凝らし、同時期に開催していた特別展に合わせて「メキシコ旅行 in 九博」と題し、やさしい日本語での展示ツアーとメキシコ風キーホルダー作り体験を行いました。3人の努力が実り、参加者の方々に博物館を大いに楽しんでいただくことができました。イベントを通して、CIR 同士の絆も深まったように感じました。

CIR が伝えたい博物館の魅力

2023年3月に Facebook アカウントを開設しました。CIR 3人で運営しており、日本語だけでなく英語、中国語、韓国語で発信しています。海外での利用者が多い Facebook を通じて、国内外の外国人の方々に九州国立博物館を知ってもらうことを目的としています。CIR 独自の視点から博物館の魅力について毎週投稿していますので、ぜひご覧ください。



博物館の多言語 Facebook

おわりに

九州国立博物館にとって、CIR は不可欠の存在です。日常の業務はもちろんのこと、館で開催するイベントやワークショップなどにも積極的に関わってくれて、幅広く活躍しています。なにより、CIR の3人は博物館が好きで、楽しんで仕事をしてくれている様子が担当者としてとてもうれしいです。これからも CIR にとって働きやすい環境を整えるとともに、館の国際交流の推進に尽力してまいります。

CIR から一言

九州国立博物館で韓国の文化財関連機関との交流に関する仕事や留学生イベントなどの博物館業務に携わること、私にとって仕事であると同時に日本の文化や歴史をより理解できる機会でもあります。分からないことだらけですが、館内の皆さんに色々なことを教えてもらい、勉強しながら楽しく仕事に取り組んでいます。ここで出会った皆さんが私にとっては先生ですね! (金 CIR)